

交通網問題対策等調査特別委員会 会議記録

1 期 日 令和 7 年 4 月 15 日 (火)

午前 9 時 23 分 開会

午前 9 時 47 分 閉会

2 場 所 第 1 委員会室

3 出 席 委 員 委員長 石田 清

副委員長 須山 泰一

委 員 浅田 徹、西田 真、

福田 嗣久、森垣 康平、

米田 達也

4 欠 席 委 員 なし

5 説 明 員 (別紙のとおり)

6 傍 聽 議 員 なし

7 事 務 局 職 員 主事 菅谷祐一

8 会議に付した事件 (別紙のとおり)

交通網問題対策等調査特別委員長 石田 清

交通網問題対策等調査特別委員会 次第

日 時：2025年4月15日(火) 9:30～
場 所：第1委員会室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 自己紹介

正副委員長 → 各委員 → 当局 → 事務局

4 協議事項

(1) 委員会所管事項の事務概要について

【市長公室】 経営企画課

【都市整備部】 建設課、都市整備課

(2) 委員会の運営方針について

委員会重点調査事項

(3) その他

5 閉 会

交通網問題対策等調査特別委員会名簿

【委 員】

2025年4月15日現在

職 名	氏 名
委 員 長	石 田 清
副 委 員 長	須 山 泰 一
委 員	浅 田 徹
委 員	西 田 真
委 員	福 田 瞳 久
委 員	森 壇 康 平
委 員	米 田 達 也

【当 局】

職 名	氏 名	職 名	氏 名
市長公室長	欠 谷 口 雄 彦	城崎振興局 地域振興課参事	橋本 郁夫
経営企画課長	真狩 直哉	竹野振興局 地域振興課参事	森口 佳徳
都市整備部長	富森 靖彦	日高振興局 地域振興課参事	上野 和則
次長兼建設課長	久田 渉	出石振興局 地域振興課参事	山本 隆之
建設課参事	山根 哲也	但東振興局 地域振興課長	大岸 勝也
都市整備課長	堂垣 俊裕		
都市整備課参事	武中 孝寛		

11名

【議会事務局】

職 名	氏 名
議会事務局主事	菅谷 祐一

<別紙1>

交通網問題対策等調査特別委員会設置要綱

1 設置の目的

豊岡市の基幹交通網の整備をはじめ、市民生活の利便性等を高めるための公共交通機関の諸課題等について調査を行うため、地方自治法第109条及び豊岡市議会委員会条例第5条の規定に基づき、特別委員会を設置する。

2 委員会の名称

交通網問題対策等調査特別委員会

3 委員の定数

8名

4 付議事件

- (1) 北近畿豊岡自動車道、山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）、但馬空港及び鉄道に関する調査研究等
- (2) 路線バス等地域公共交通に関する調査研究等

5 委員会の設置期間

調査完了の時期まで

6 調査の経費

議会費の中で議長の定める額

7 その他

設置期間中、議会の閉会中も継続調査できるものとする。

交通網問題対策等調査特別委員会重点調査事項（案）

2025.4.15

1 高規格道路に関する事項

- 北近畿豊岡自動車道の事業推進に関すること
- 山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）の事業推進に関すること

2 但馬空港に関する事項

- 空港の利用促進並びに支援体制に関すること
- 東京直行便の実現に向けた事業推進に関すること

3 バス交通に関する事項

- 路線バス等公共交通の充実と利用促進に関すること
- スクールバスに関すること

4 鉄道交通に関する事項

- 鉄道交通の維持・存続並びに利用促進に関すること

5 新たな交通サービスに関する事項

- 自動運転技術の導入に関すること
- 自家用有償旅客運送等に関すること

午前9時23分開会

○委員長（石田 清） まだ時間にはなってませんけども、皆さんおそろいのようですので、ちょっと早めに始めさせていただきたいと思います。

それでは、改めまして、委員長の石田でございますが、今年は桜の咲くのも、ぱっと咲いて、もう今や葉桜ばかりという話で、結構まだ肌寒いですけども、皆さんにはお体を気をつけて職務に精励いただきたいというふうに思います。

今回は年度初めの最初の委員会ですけども、あんまり変わりはないかもしませんけども、それぞれの事務の報告あるいは説明をいただき、もう一度リセットしてみたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。前回のとおりとは言わないようにお願いします。

まず、市長公室、谷口室長より、本日の委員会を欠席する旨の申出がありましたので、ご了承願います。

委員会中の発言につきましては、必ず委員長の指名を受けてから、マイクを使用し、発言の最初に課名と名字をお願いいたします。

委員の皆さんには、Side Booksのフォルダ一、交通網問題対策等調査特別委員会、4月15日の中に配信しております資料をご覧いただきたいと思います。

それでは、協議に入りますまでに、今回は年度当初の委員会であり、4月1日付の人事異動で当局職員の異動がありましたので、といつてもほとんど替わらないですね、誰か替わった方おられますか。（発言する者あり）ああ、そうだね。

異動がありましたので、ここで出席者皆さんに自己紹介をいただきたいと思います。

まず、委員長からですが、私が委員長の石田清です。よろしくお願ひいたします。

○委員（須山 泰一） 副委員長の須山です。どうぞよろしくお願ひいたします。

○委員（米田 達也） 委員の米田です。よろしくお願いします。

○委員（森垣 康平） 森垣です。よろしくお願ひし

ます。

○委員（浅田 徹） 浅田でございます。よろしくお願ひします。

○委員（福田 翠久） 福田です。よろしくお願ひします。

○委員（西田 真） おはようございます。西田です。よろしくお願ひします。

○委員長（石田 清） 次に、市長公室長はちょっと欠席になっておりますけども、経営企画課、それから都市整備部、それから建設課、都市整備課、各振興局地域振興課の順でお願いいたします。

○経営企画課長（真狩 直哉） おはようございます。市長公室経営企画課長の真狩と申します。どうぞよろしくお願ひします。

○都市整備部長（富森 靖彦） おはようございます。都市整備部長の富森です。引き続きよろしくお願ひいたします。

○都市整備部次長兼建設課長（久田 渉） おはようございます。都市整備部の次長兼建設課長の久田です。引き続きよろしくお願ひいたします。

○建設課参事（山根 哲也） おはようございます。このたびの異動で城崎振興局から建設課参事のほうに異動してきました山根哲也と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

○都市整備課長（堂垣 俊裕） 都市整備課長、堂垣です。昨年に引き続きよろしくお願ひします。

○都市整備課参事（武中 孝寛） おはようございます。都市整備課参事の武中です。引き続きになりますが、よろしくお願ひいたします。

○城崎振興局地域振興課参事（橋本 郁夫） おはようございます。城崎振興局地域振興課参事の橋本です。また引き続きよろしくお願ひいたします。

○竹野振興局地域振興課参事（森口 佳徳） おはようございます。竹野振興局地域振興課の参事の森口です。よろしくお願ひします。

○日高振興局地域振興課参事（上野 和則） おはようございます。日高振興局地域振興課参事の上野です。また引き続きよろしくお願ひいたします。

○出石振興局地域振興課参事（山本 隆之） おはよ

うございます。4月より出石振興局地域振興課参事をしております山本です。よろしくお願ひいたします。

○但東振興局地域振興課長（大岸 勝也） おはようございます。但東振興局の大岸です。職名は参事から課長になりましたが、交通のほうは私が、それから参事のほうが防災のほうを担当させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

○委員長（石田 清） 最後に、事務局、お願ひいたします。

○事務局主事（菅谷 祐一） 議会事務局、菅谷です。よろしくお願ひします。

○委員長（石田 清） 次長も同席されてますが、次長です。

○事務局次長（佐田美佐樹） すみません、この4月から議会事務局次長の佐田と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

○委員長（石田 清） それでは、協議事項に入ります。

まず、次第の（1）番、委員会所管事項の事務概要についてを議題といたします。

それでは、経営企画課、建設課、都市整備課の順で説明をお願ひいたします。

真狩課長。

○経営企画課長（真狩 直哉） よろしくお願ひします。3ページをお願いします。市民の移動の在り方検討です。

現状と課題です。公共交通は不特定多数の人々の乗り合いを前提としたもので、利用の目的の異なる利用者が所定の運賃を支払えば自由に利用できるものです。しかしながら、人口減少、コロナ禍による行動変容などにより、現状の公共交通手段、交通体系では市民の移動を支え切れなくなってきたています。教育や福祉、観光など、分野ごとの個別最適も限界に達してきており、市として移動というものを大きく捉え、全体最適を図っていかないと、市民の移動を支え切れなくなり、市民生活へ大きな影響を与えることというのが懸念されます。

基本方針です。持続可能な市民の移動需要を支え

るための方策を府内で検討します。

概要です。市民の移動の在り方についての府内の検討会を開催し、各分野の施策の状況や課題を共有し、移動を支える施策を検討します。以上です。

○委員長（石田 清） 久田次長。

○都市整備部次長（久田 渉） 4ページをご覧ください。北近畿豊岡自動車道の事業推進についてです。

現況と課題、それから基本方針についてです。当該道路は1987年6月に路線指定をされ、2024年9月には豊岡出石インターチェンジまでが開通し、全体延長73キロのうち約68キロは供用開始をしております。加えまして、2020年度には最終区間となる豊岡道路第Ⅱ期区間が事業化されたことにより、全線事業化をされております。今後とも全線開通に向けた早期実現促進大会を継続開催するとともに、国や県などに当該道路の必要性を強くアピールすべく、要望活動も行ってまいります。

次に、概要についてです。1つ目の豊岡出石インターチェンジから仮称豊岡北ジャンクション・インターチェンジ、豊岡道路のⅡ期につきましては、引き続きの調査設計や用地買収、それから仮設道路に係る改良工事が行われると伺っております。

2つ目の早期実現促進大会につきましては、今年度は8月の9日の土曜日に例年どおり800人規模での開催を予定しており、但馬の思いを強く訴えていきたいと考えておるところです。

最後に、3つ目の要望活動の件についてですが、こちらにつきましても、引き続き国や財務省、近畿地方整備局へ当該道路の必要性を強くアピールするなど、積極的な活動を展開したいと考えております。

それから、次には、6ページをご覧ください。山陰近畿自動車道の事業促進についてです。

当該道路につきましては、1994年12月に地域高規格道路として路線指定を受け、兵庫県内では香住道路、東浜居組道路、余部道路、浜坂道路が開通し、県内延長51キロ中、約23キロが供用されております。また、豊岡市域におきましては、竹野

道路が2021年度に事業化され、現在、測量・調査・設計業務が進められております。加えて城崎道路につきましては、2023年度に国の直轄権限代行にて新規事業化されたところです。こちらにつきましても北近畿豊岡自動車道同様に、今後も全線開通に向けた早期実現促進大会を継続開催するとともに、国や県などに当該道路の必要性をアピールすべく要望活動を行い、より一層の積極的な活動を開拓したいと考えているところです。

概要についてです。1つ目の浜坂道路Ⅱ期につきましては、トンネル工事と橋梁上部工、それから2つ目の竹野道路につきましては、引き続きではあります、調査設計、用地買収、3つ目の城崎道路につきましては調査設計を予定をしております。

なお、竹野道路につきましては、本市負担分として別途100万円の予算を確保しており、県が今年度、起工式を行うということを予定をしてると聞いております。

また、5つ目の早期実現促進大会と6つ目の要望活動につきましては、北近畿豊岡自動車道と同様なので省略をさせていただきます。

最後に、7つ目のその他、山陰近畿自動車道整備促進決起大会につきましては、兵庫県、鳥取県、京都府の3府県が東京で毎年11月をめどに開催している決起大会で、事務局として本市も参加予定しております。

最後に、8ページには、北近畿豊岡自動車道と山陰近畿自動車道の整備計画図面、要望時の図面を添付をしてございます。

建設課からは以上です。

○委員長（石田 清） 堂垣課長。

○都市整備課長（堂垣 俊裕） 都市整備課からは、3件、事務概要を説明させていただきます。

9ページをご覧ください。空港の利用促進と利便性の向上です。

まず、現状と課題、基本方針についてです。コウノトリ但馬空港は、1994年の開港以来、但馬の玄関口として地域の活性化に大きく寄与しており、昨年5月18日に開港30周年を迎えました。20

24年度の利用者数は、3月31日現在の速報値で昨年度比3,280人減の3万5,452人だったが、コロナ禍の落ち込みからおおむね回復しております。なお、東京乗り継ぎ利用者数は1万3,284人となり、利用者の37.5%を占め、昨年度比0.5%減となっております。

今年度も引き続き利用拡大を図りつつ、但馬地域と首都圏を結ぶ東京直行便の開設に向けた取組と、但馬－伊丹線の年間目標利用率を70%とするプロジェクト、ターゲット70を継続して取り組みます。

次に、概要です。主な取組の1点目につきましては、市民等に対する但馬路線航空運賃の助成や小学生の社会見学への支援を通じ、但馬空港の利用を促進します。

2点目としまして、大阪・関西万博の関連事業を実施します。

3点目としまして、兵庫県、但馬空港推進協議会と連携し、東京直行便開設に向けた日本航空株式会社及び日本エアコミューター株式会社への要望を7月に予定しています。

4点目につきましては、記載のとおりです。

次に、10ページをご覧ください。バス交通の充実と利用促進です。

まず、現状と課題、基本方針についてです。地域公共交通の基盤であるバス交通は、自家用車の普及や域内人口の減少等により利用者数が年々減少、加えて深刻なドライバー不足により、大変厳しい運営状況にあります。路線バスについては、今後も継続して国、県と協調し、運行に係る経費の補助を行い、主要バス路線の維持、確保に努めつつ、運行事業者と共に将来を見据えた路線再編に取り組みたいと考えております。

また、路線バスの代替交通として運行しています市営バス「イナカ一」につきましては、6路線で運行しており、沿線住民の外出を支援していますが、交通体系の再編に伴い、赤石線と竹野海岸線の2路線の運行を終了することとしています。地域主体交通チクタクについては、今年度も引き続き、出石、

但東の4つの地域で運行し、地区内の移動制約者の日常生活を支えます。また、竹野地域で交通再編を行い、事業者協力型の予約型乗合交通の運行を2025年10月に開始することとしています。

今後も引き続き、地域の実情に応じた新たな交通モードの検討を進め、持続可能なバス交通ネットワークの構築を目指します。

次に、概要です。主な取組の1点目の主要バス路線の維持と、2点目の地域の実情に応じた交通体系とネットワークの構築につきましては、先ほど現況で説明したとおりです。

3点目は記載のとおりです。

4点目として、毎月2回、第2水曜日と第4金曜日に実施しているノーマイカーデーを昨年度に引き続き実施するとともに、今年度は豊岡市制20周年記念事業として、7月から11月に期間限定で拡大実施することとしています。

次に、11ページをご覧ください。鉄道交通の利用促進です。現況と課題、基本方針についてです。通勤、通学、通院など、市民の日常生活や交流人口の拡大、災害時のリダンダンシー機能の確保という観点から、鉄道交通は必要不可欠な社会基盤であると考えています。しかしながら、自家用車の普及や沿線人口の減少等により、利用者は年々減少傾向にあり、鉄道交通を取り巻く環境は厳しさを増しています。

このような状況の中、JR西日本は、大量輸送機関として鉄道の特性を発揮できていないとする線区の輸送密度と経営状況を公表し、地域のまちづくりに合わせた最適な地域交通体系を共につくり上げていく必要があるとの課題を提起し、県と沿線自治体は路線ごとに現状と課題を踏まえた利用促進策の方向性を取りまとめ、関係者がそれぞれの立場で利用促進に取り組んでいます。

また、京都丹後鉄道では、維持活性化を図るため、2015年4月から運行部門と施設部門を異なる主体が担う上下分離方式が導入され、沿線府県市町が連携し、持続可能な運営に努めています。なお、上下分離方式による運行の継続に向け、運行管理事

業者と施設管理事業者との間で契約期間の終期を2034年度末までに延長することが合意され、2025年3月27日に変更契約を締結しています。

引き続き沿線自治体と連携し、利用者の利便性向上対策と運行事業者への支援を行います。

次に、概要です。主な取組の1点目につきましては、JR山陰本線利用促進策創出ワークショップで立案された取組として、乗って守ろう！竹野駅ペイを昨年に引き続き実施するとともに、今年度は香美町、新温泉町の山陰本線沿線自治体へ対象範囲を拡大して実施することとしています。

2点目の京都丹後鉄道の運行支援につきましては、例年の取組であり、記載のとおりです。

都市整備課からの説明は以上です。

○委員長（石田 清） ありがとうございました。

以上で説明は終わりました。

質疑、意見等はございますでしょうか。ございませんか。

どうぞ。

○委員（須山 泰一） よろしくお願ひします。最初の経営企画課ですけど、全体の最適化というようなことで、確かに教育や福祉、観光など分野ごとの個別最適が限界になってるっていうことで、全体の最適化というのは大事な観点だとは思うんですけど、去年も、たしか、何でしたっけ、自分づくり、自分化会議でしたっけ、あそこで交通網の問題をされましたけど、今年は検討会議を開催というのは、昨年とはまた違った形でされますか、どうでしょうか。

○委員長（石田 清） 真狩課長。

○経営企画課長（真狩 直哉） 昨年度は、自分ごと化会議という中でバス交通というのが取り上げられましたけども、こちらのほうで書いてます検討会議というのは府内での検討というようなことで、それぞれの部署が集まって、どういう方策があるかというのを検討していくという会議になります。以上です。

○委員長（石田 清） はい。

○委員（須山 泰一） じゃあ、自分ごと化会議としてじゃなくて、また別の形でやるということだけ

ど、これは1つの課だけでは、もう課をまたぐんじやないかと思うような問題なんんですけど、例えば要支援1とか2の、介護保険でいえばそんなに重くない。だから外出支援サービスとか、いわゆる健康福祉部のサービスが使えない。しかし、バス停まで遠くて歩けない。だからタクシーで日高から豊岡まで行くにも往復5,000円、もっとかけて行くというようなことをちょくちょく聞くんですよ、ほかの町でもあると思うんです。こういうのは、どこに言えばええかって思ってしまうような話ですけど、そういうことは取り組んでいただけないでしょうか、全体最適を考える上で。

○委員長（石田 清） 真狩課長。

○経営企画課長（真狩 直哉） 先ほどおっしゃった、例えば介護の分野ですと、当然、介護を扱っている部署ということになりますけども、そこで持っている交通の体系というところではどうも扱えないというようなことが起きたとしても、その検討会議というのは他の部署も集まってやってますので、その辺りをどういうふうに、そういう困っている人というのを移動できるようにしていこうかというのを複数の部署で、課をまたいで検討しているという状況です。

○委員長（石田 清） はい。

○委員（須山 泰一） 効率化とか採算とともに大事なんですけども、ぜひそういった視点での検討もお願いしたいと思います。

あと、次、別の話ですけど、但東町の実証実験のことはどうなって、終わったんですかね、どんな感じでしょう、もし分かれば教えていただきたいです。

○委員長（石田 清） 真狩課長。

○経営企画課長（真狩 直哉） 実証は終えまして、今、地域の方にアンケートをお願いして、その集計等をやっている最中でして、中間的な内容というのは今出てますけども、今、最終的な集計をやっているところで、今後その結果を受けて、地域は地域で、市は市として、それぞれの立場でどういうふうに考えていこうかというのを検討しているところです。

○委員（須山 泰一） ありがとうございます。

○委員長（石田 清） はい。

○委員（須山 泰一） すみません、僕ばっかりで。それは、なら実証実験は終わったんだけど、やっていく方法を今後考えていくんですか、そういうのを継続して。

○委員長（石田 清） 真狩課長。

○経営企画課長（真狩 直哉） 今後どうしていこうかというのをこれから検討していくということになります。

○委員（須山 泰一） 分かりました。

○委員長（石田 清） そのほかございませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（石田 清） ほかにないようですので、当局の職員の方は退席をしていただいて結構です。お疲れさまでした。

次に、(2)の委員会の運営方針についてですが、前回までの委員会で決定しました委員会重点調査事項を S i d e B o o k s 上の本日のフォルダー、次第等の資料4ページに配信しております。改めて、今期の委員会重点調査事項について協議をお願いします。

この件について、特にご意見はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（石田 清） 特にご意見がないようですので、当委員会の重点調査事項は現行のとおりとし、変更しないこととしたいと思います。ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（石田 清） 異議がないようですので、そのように決定しました。

その他として、委員の皆様から何かございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（石田 清） ないようですので、以上をもちまして委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

午前9時47分閉会